

第4回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成24年9月11日（火） 16：00－17：40
2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官 他
4. 議事要旨
 - (1) 現行の宇宙基本計画のフォローアップについて
 - (2) 新たな宇宙基本計画に盛り込むべき事項(総論)について
 - (3) 衛星測位の現状、課題及び今後の検討の方向について
 - (4) リモートセンシング衛星の現状、課題及び今後の方向について
 - (5) 通信・放送衛星の現状、課題及び今後の方向について

上記の議事に関して、事務局から資料1～資料5について説明があった後、委員から以下のような意見があった。

資料2については、一部修正を事務局において加えることで了承された。また、資料3～5については、新たな宇宙基本計画に盛り込む事項をまとめることとなった。

- 総論の基本認識の中で、安全保障の重要性につき、もっと前面に出して記載すべき。
- 安全保障のために開発した技術が一定期間を経過したものは、民生にも応用していくという視点にも触れるべき。
- 長期的な視点から何をベースにして技術を伸ばすかという視点が大切。安全保障や宇宙科学などが考えられるが、時間軸を十分に考慮して、管理していくことが重要。
- 現在の宇宙基本計画の進捗状況のフォローアップについて、現在の宇宙基本計画は年間5000億円の投資を前提としているが、外需の取り込みなど政府による投資との差を埋める方策について、具体的な戦略が必要。

- パッケージ型インフラ輸出は極めて重要であるが、必ずしもフルパッケージにこだわる必要はなく、サブシステムとしての海外展開にも、政府は積極的に支援すべき。
- 試験設備や射場などのインフラ整備は重要で、輸送システムについても体系的に触れてほしい。
- 人材育成や産業の新規参入、ベンチャー支援についても重要であるので、総論の中でも記載すべき。
- 測位衛星についての海外展開やアジアとの協力の拠点作りは、緊急の課題であり、アジアとのコミュニティ作りを早急に行うべき。

以上